

「田舎から学ぶ」〜菊池南ブロック活動〜

菊之池・花房・戸崎・隈府地区で組織されている菊池南ブロックが特に力を入れてきたのは「人権啓発講演会」です。各小学校区の特徴ある取り組みを根底に据えながら、各推進会議間の連携を図り、人権啓発を指して6年間実施してきました。

うーみさんの人権コンサート

4地区持ち回りで計画・運営している人権啓発講演会。平成30年度は花房地区が担当し、菊池南ブロックと合同で「うーみさんの人権コンサート」を市文化会館で開催しました。両ブロックの小学6年生や中学1・2年生、各地域の皆さん約600人が参加しました。



思いを語るうーみさん

うーみさんから、障がいとともに生きること、自身の体験からのアドバイスなどを聞いた子どもたちからは、「一人で悩まないで、困った時は誰かに相談したい」といった感想が出されました。大人たちも、子どもたちの心の声に耳を傾けることが大切だと再確認できました。

「人権啓発講演会」

出合いを通して学び合い、人と人をつないでいくことは菊池南ブロックの目指すところです。昨年行った各地区の「人権啓発講演会」の内容を紹介します。

昨年の「人権啓発講演会」の内容	
菊之池地区	梅原司平さん人権コンサート
花房地区	倉田哲也さんによる障がい者の人権講演
戸崎地区	元パラリンピック選手、山本行文さんによる講演と車椅子バス体験
隈府地区	ゴールボール金メダリスト、浦田理恵さん講演「困難は神様からのプレゼント」

問い合わせ先 人権啓発課
0968(25)7209

「愛と平和への思いを届ける人権コンサート」

菊之池地区で開催した梅原司平さんのコンサートでは、「感性なき教育は教育にあらず。知ることよりも感じる事が大事」という司平さんの思いがこもった曲が演奏され、会場は笑いと涙、感動で満たされました。

コンサート終了後のアンケートでは、次のような感想が出されました。「菊池恵楓園に勤める私さえ差別を受けたこともありませんが、ボランティアガイドの勉強をしてハンセン病を正しく理解する人たちも生まれ、今では入所者の人権が次第に回復されてきています」「愛と平和、命、人として何が一番大切なのか、とても考えさせられる時間となりました。」

人権コンサートや講演会などで、多くの人との出合いがあります。そのような場で、自分自身を問い直し、感性を磨いていき、自分も他者も大事にする。こういった社会の実現に向け、菊池南ブロックは日々活動に取り組んでいます。



韓国発見シリーズ⑥
子どもたちは金です



国際観光マネージャー 金相廷

子どもへの最高の贈り物

最近の韓国の新聞報道では、小学生に「子どもの日に何をしたいか」というアンケート調査をしたところ、48%がおもちゃなどのプレゼントやお小遣いがほしいと答えたそうだ。しかし「親との時間が欲しい」と答えた子どもも多く、特に女子生徒の40%は「家族と遊びに行きたい」と回答。これは女子生徒の中で最も多いものだった。

こうした子どもたちの回答を受け、ある専門医は「子どもたちにとって意味ある贈り物」についてこう助言した。「大人になって辛いことがあった時、最も慰めになるのは子どもの時に経験した親との良い思い出である。それは思い出しただけで□元に笑みが浮かぶ。楽しく温かい思い出を出来るだけ多くつくるように」。

無条件に愛され、楽しかった幼年期の経験は、思春期はもちろん、大人になっても人生の困難を克服し、前に進むのに大いに役立つ。

また「親は子どもたちに手書きの手紙を書くように」とも助言した。子どもを愛する心を文章で伝え、その手紙をとっておくと、親との会話が難しくなる思春期にも、子どもは親がどれほど自分を愛しているかを感じ取れる。

お母さん大好き、お母さんありがとう、お母さん安らかに休んでね、世界で一番食べたいのは、お母さんが作ったごはんでももう食べれないね、これからは私がお母さんに作ってあげるね、お母さんが好きだったおかずをいっぱい作ってあげる、でもお母さんのごはんが恋しい、世界中で一番逢いたい、見たいのはお母さんの顔、子どもたちへの本当の贈り物は、時間が経っても変わらない健全な価値観と、親との時間や愛を与えることのように。